

## 教育委員会会議の概要（令和5年7月臨時会）

- ◆ 日 時 令和5年7月14日（金）午後2時00分から午後5時50分まで
- ◆ 場 所 教育局 第1会議室
- ◆ 出 席 者

教 育 長	福 田 洋 之	出 席
委員・教育長職務代理者	花 渕 浩 司	出 席
委 員	梅 田 真 理	出 席
委 員	川 又 政 征	出 席
委 員	後 藤 由 起 子	出 席
委 員	山 田 理 恵	出 席
委 員	庄 司 弘 美	出 席

### ◆ 会議の概要

- 1 開 会
- 2 議事録署名委員の指名 川 又 委 員

### 3 協 議 事 項

#### （1）令和6年度使用の仙台市立義務教育諸学校教科用図書の採択について

（教育指導課長、教育センター担当指導主事 説明）

#### 【国語】

教 育 長 「国語」について協議を行う。事務局から、学習指導要領の目標等について説明をお願いします。

教育指導課長 担当指導主事からご説明する。

指 導 主 事 小学校「国語」について説明する。

小学校「国語」では、言葉による見方、考え方を働かせ、言語活動を通して国語で正確に理解し、適切に表現する資質・能力を育成することを目標としている。

協議会において取りまとめた小学校国語の全発行者の特長は、別紙資料1、報告の別紙1の11ページに示している。

主な特長について、まずA者は、「読むこと」の説明的な文章の学習で、二つの教材を扱う構成で段階的に学ぶことができ、基礎的・基本的な内容を確実に習得することができるよう工夫されているということである。

次にB者は、各単元の最初に「言葉の力」「学習の流れ」が示されており、児童が見通しを持って学習を進めることができるよう配慮されているということである。

次にC者は、「問いを持とう」で課題を引き出し、「広げよう」で発展的な学習につながる構成となっており、主体的に取り組むことができるよう配慮されているということである。

教 育 長 ただいまの事務局の説明について、何か質問があればお願いします。

(質疑なし)

教 育 長 それでは、委員の皆様から各発行者の教科書についてご意見を頂戴したい。

後 藤 委 員 3者とも古典的な内容から新しいものまで満遍なく入っていてよい教科書だった。

A者は、多岐にわたる表現方法を提示している。例えば5年生の「まんがの方法」など、児童は漫画表現というものに大変興味を持つので、教科書を受け取ったらまず漫画から読むという児童がとても多いのではないかと思う。A者は漫画表現を一つの表現方法として説明しており、現代的な様々な表現力を育む指導に配慮されていると感じた。多様な個性、能力に対応するとともに、深い学びを実現させる工夫がある。

B者は、必要な題材がそろっており、全体としてバランスがよい。「言葉」というページでの文法の学習も丁寧で分かりやすく、児童がつまづくポイントを解説している。高学年で繰り返しインターネットについて調べさせ、6年生では討論する内容であり、現代的な課題について対話的で深い学びを展開させるよう配慮されていると感じる。また、6年生の「ヒロシマのうた」は、物語の冒頭を提示して、残りの部分は二次元コードでアクセスして読ませるなど、体裁として二次元コードからつながるウェブページを併せて整えているという印象を持った。

C者は、必要な題材がそろっており、こちらも大変構成が良いと思った。文章を書くことが苦手である児童が多いが、主語や述語がどれなのか、言葉を単語に分けてカード状にして組み合わせる手法を提示しており、この方法であれば、主語と述語の区別がつきにくい児童でも、カードを並べることで感覚的に文を組み立てることができるのではないかと思った。

山 田 委 員 私も、3者とも発達の段階、幼稚園から小学校、中学校の系統性が配慮されていると感じた。どの教科書も6年間で、「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」についてバランスよく配置されていると感じた。

A者は、各学年を通してバランスよく配分されている。「見通しをもとう」でこの章を学ぶ目当てを最初に知り、詳しく読み込んで、友達と話し合い、最後に「ふり返ろう」でまとめるという、学びやすい流れとなっている。また、古典や芸能などの伝統的な教材が入っている。一方で、パネルディスカッションやパンフレットの作成、物語を作るなど、社会に出てから役立つ内容が入っている。上下2分冊になっている点も、運ぶのに重くなくて良い。

B者は、最初に「言葉の力を集めよう」で1年間で各章で学ぶ内容をまとめて示しており、学んでほしいことが分かりやすく示されている。また、SDGsや環境、インターネットの活用方法など現代的なことにも触れている。さらに、見開きの美しい絵や詩、表紙の絵などが学年に応じて見やすく、親しみやすい印象を受けた。

次にC者である。「国語の学びを見わたそう」が教科書の最初にあり、どのように学習が進むのかが記載されているのが良いと思った。見通しを持つ、また問いを持つことから、「一人でじっくり考える」と「みんなでよく考える」という二つの方法で学習を進め、最後に振り返る、そして生活に生かすという流れになっているのも良い。

また、C者の特長として、季節の言葉や四季のよさを感じるような内容、日本的な内容の紹介が取り上げられており、日本語と他の言語との比較や日本文化について記載されているのが良い。一方で、インターネット上の情報やパンフレットの作り方、プログラミング的思考といった、課題解決につながるような考え方や現代の問題につながることに触れている点も良いと思った。

庄 司 委 員 3者とも共通して言えることは、国内外の様々な所の本などを満遍なく取り上げている。図書館がどんな所なのか、図書館に行くことで本との出会いがあることなど大事なことを伝えている。学校に通い始めた一年生にとって、文字は敷居が高いかもしれないが、自然と親しめるような雰囲気があると感じた。

まずA者だが、1年生の始まりの数ページは絵だけで、文字が出てくるまでに時間をかけており無理なくスタートができるところが大変良いと感じた。学習の進め方、「見通しをもとう」では、学習の過程が、ここで何を学ぶのかが大変明確になり、進めやすいと感じた。

B者は、「言葉の力」では目当てがわかり、大変進めやすいと感じた。また、「国語ノートのつくり方」「デジタルノートのつくり方」では、ノートの取り方を具体的に示しており、読むことから始まるが、書くことにも大変力を入れており、わかりやすいと感じた。「読むこと」の単元と「書くこと」の単元に「情報のとびら」が設定されているが、「読むこと」で身に付けたことを「書くこと」の学習に効果的に結び付けられるような流れになっているところが大変良いと感じた。

C者だが、1年生は、ページを見開いた時に、どんなことが目に飛び込んでくるのか、文字ではなく自分が感じるところからたくさんの言葉が生まれて、徐々にそれが文字に変換されていくという無理のない進め方が良いと感じた。また、単元ごとに手引があり、学習の進め方、進み具合の確認ができ、大変わかりやすい。

花 淵 委 員 国語というのは全ての学習の基本だと思うので、非常に大事ではないかと考えている。

まずA者だが、説明文単元の構成が非常に面白いと思った。独特な二つの教材で構成されており、非常に他者との違いを感じた。それから、全学年、上下巻の分冊になっていることも、児童への配慮ということではないかと思った。「言葉の文化」というコーナーでは、言葉遊びや慣用句などが取り上げられており、伝統的な言語文化に親しむことが良いと思った。

B者は、単元が「見通す」「取り組む」「ふり返る」という3段階となっているということで、これは教える先生方も学ぶ児童も非常に分かりやすい単元構成になっている。「言葉相談室」で文法を取り上げており、小学校の国語では文法だけを取り上げるコーナーが少ないが、これは非常に大事なところで、中学校で文法が苦手になることを踏まえると、小学校での文法の取扱いをもう少し大きくしても良いのではないかと考えている。そこで、B者の「言葉相談室」はすばらしいと思った。また、写真や挿絵が非常に大きくて見やすく児童の学習意欲の喚起にもつながるのではないかと思った。

C者については、6年生の最後で「中学校へつなげよう」という単元があって、これは中学校とのつながりを特に意識していると感じた。また、「言葉の準備運動」では、日常生活で生かせる対話力の育成に力を入れているとも感じる。各学年ごとに教科書にタイトルがついており、例えば3年生であれば、「小3国語」で終わらずにサ

ブタイトルがついているというのが非常に良いと思った。

梅田委員 私も、国語は全ての教科の学習に通じるところがあるので、大変重要だと思っている。3者とも教材のバランスや配列が非常に工夫されていて、どれも学びやすく工夫がされていると思う。

A者だが、それぞれの学年で学ぶ内容が、「話すこと・聞くこと」と「書くこと」と「読むこと」という領域別に示されていて、全体をつかみやすくなっていた。また、「言葉の広場」というところでは日本古来の文化に触れるような内容があって、伝統的な言葉に触れる部分もあって良いと思った。また、それぞれの学年では学ぶ内容を示したページに生活に生かすという視点が盛り込まれていると感じた。学年の初めに言葉で伝え合うことをねらったページがあって、学年初めの言語活動を重視しているのではないかと感じた。写真や絵なども適切に取り入れられており、途中で考え方を整理するためのマインドマップのような図も取り入れられており、分かりやすい。

B者では、冒頭にその学年をイメージした詩があって、特に読むことに対して興味を持つような工夫がされていた。「言葉の力を集めよう」では、1年間の学びを把握できるように、1年生から6年生まで6年間工夫されている。全体として、話すこと、聞くこと、書くこと、読むことが学年に応じてバランスよく配列されており、単元の初めには単元の内容をどのように学ぶかということを2ページにわたって示し、単元の目標を押さえてから学習に入れるよう工夫されている。単元の最後には「ふり返る」というマークがあって、学んだことを確認をしながら次の学習につなげることができるよう工夫されている。

C者では、1年生から目次が児童にとって見やすく示されて、読むこと、書くこと、話すこと、聞くことなどがマークで分かりやすく把握できるように示されている。2年生から6年生は目次の後に「国語の学びを見わたそう」というページが作られていて、見通しを持つ、問いを持つというところから振り返るという流れまで簡潔に示されており、何をどう学ぶかが分かるようになっている。また、「一人でじっくり考える」、「みんなでよく考える」という項目も示されていて、主体的に学べるよう工夫がされていると思う。他者と比べると、学習する内容について単元前に示される指示を少なくし、目標を簡潔に示すことで、児童は疑問を持って、あるいは課題を持ってその単元に取り組めるように工夫されている。上巻には必ずその学年でできるようになりたいことを目標として書くスペースがあり、1年間目標を持って学べるよう工夫されていると思う。また、巻末に各学年に合った、いろいろな本を紹介する「本の世界を広げよう」というページがかなり充実した中身で盛り込まれており、児童の読書への興味・関心を高めるような工夫がされていると感じた。

川又委員 ABCの3者とも1年上巻の最初のところで様々な工夫がされているので、これについて話をしたいと思う。

まず、A者の1年上巻の最初のところでは、幼稚園から小学校への入学時に滑らかに国語の授業に入っていけるように、日常生活に沿った題材が多数選ばれており、工夫があると思った。また、教科書の構成だが、全学年、上下の分冊になっており、取扱いしやすく、児童にとっても利用しやすい形に作られていると思う。内容としては、「言葉の広場」や「言葉の文化」で、言葉というものを非常に重視して、その広がりをお伝えしようという考え方の教科書であると思う。

次にB者だが、1年上巻の導入の部分については、最初のほうでかなりの程度、絵

本のようなスタイルになっており、形式張らない構成になっている点で、小学校の国語の学習に滑らかに入っていけるものと思う。また、教科書の図版や文字等の配列は間隔が結構広く取られているということと、余白が非常にうまく配置されていて意味のある余白の使い方になっており、その点で教科書全体として読んでいて疲れないような図版、文字の配置となっていると思う。内容について、高学年になると物語に加えて論文や評論的なもの、報告、報道といったいわゆる説明文の内容が充実していて、現代的なメッセージ性にあふれるような題材が多いと思った。科学技術とか環境のこと、そういうような題材を取り上げて、現在のいろいろな社会的な問題や解決すべき課題を考えさせる、疑問を生み出すような題材が多いと思った。

C者は、まず1年上巻の導入が、最初のところで文字がほとんどなくて、イラストのみのページが何ページか続くような構成になっており、これは最も緩やかな導入部分になっていると思う。2年生から6年生の各学年の最初の「国語の学びを見わたそう」で、2年生から6年生の学習の段階に合った詳しさ、内容で学習の位置付けが明らかにされて、各学年の学習の方向性が示されていると思う。内容として、言葉の歴史、言語の歴史や古典、漢字、熟語等に関して詳しく説明されており、言葉とそれに関連する文化について触れる記述が多くあると思う。

教 育 長 それぞれ意見をお聞きになって、確認をしたいこと、あるいはご質問などがあればお願いしたい。

(質疑なし)

教 育 長 それでは、どの発行者の教科書がいいかということも含めてまたご発言をいただければと思う。そして、1者に絞り込んでいきたいと思う。ご意見をお願いします。

後 藤 委 員 B者の6年生の108、109 ページ「世界は必ず変えられる」という内容のものがある。とても良い内容で、メッセージ性があるが児童に聞かせたい話であるが、そこにはコンゴの避難民キャンプの写真が載っている。写真自体は笑顔のコンゴの子どもたちの写真で何ら問題はないが、教室には様々なルーツを持つ児童が在籍しており、その子どもたちがこの写真を見たときにどのように感じるかというところに配慮すべきなのではないかと思う。また、自分のクラスメートの日本人の子たちがこれを見たときにどう感じるのか。教えている内容は大変良いが、写真に対する配慮が授業を展開するときに必要なのではないかと思う。

梅 田 委 員 その点について、今回、国語だけではなく全ての教科書において、かなり多様性に配慮して肌の色の違う子供や髪の色が違う子供、あるいは名前がカタカナの子供や車椅子に乗っている子供がたくさん出ている。それらは確かに、今の写真も含めて多様性に配慮しているということになるのかもしれないが、教科書で使えば子どもたちが多様性に配慮できるようになるかというところではなくて、教師がどう教えるかということだと思う。

したがって、今回の写真の件も含めて、先生方がご自分のクラスにいる児童、あるいは学校にいる児童のことを考えつつ、国語は割と少ないが、他の教科書はキャラクターとしてそういった子供たちがたくさん使われているので、そこをどのように説明するのか、あるいは使っていくのかということは、それぞれ指導なさる先生方あるいは学校として指導に入る前に考えておく必要があるのではないかと思う。仙台市ではそれほど外国籍の方が多く集まっている学校は少ないと思うが、今後増えていく可能性もある。あるいは障害のある児童についても同じだが、そのことはぜひ学校として、

あるいは各教科で、あるいは各先生方で指導に入る前に考えた上で教科書を使っていたきたい。

教 育 長 どのように指導していくかというところが大事だという話になるかと思う。

花 淵 委 員 私はB者のつくりが大変良いと思った。特に、先ほども言ったが、「言葉の力」で、その単元の目標を示されており、「生かそう」で、他教科への広がりや実際の具体的な生活の中でこんなことに使えるというのが示されている。単元の前にこの単元での学習はこういうことであると概観できるようにしてあり、それを踏まえた上で説明文であったり物語文の学習に入っていくということは、児童にとってこの教材では何の学習をするのかというのが明確になるという意味からも、B者が良い。

山 田 委 員 私はC者が良い。「季節の言葉」というのがあり、例えば6年生の138ページの「秋の深まり」など、そこには季節の言葉と写真が載っている。これが国語的にどうなのか、先生方としてどう教えるかというのは別として、やはり日本的な言葉をどこかの段階で頭の片隅に置くというのが国語では重要だと思う。他者の教科書にも言葉遊びのようなことが載っており、ふだんの生活では使わないが、そういう言葉をインプットするという意味では良いと思った。

梅 田 委 員 先ほども話したが、私は国語は非常に重要だと思っていて、全ての教科の学びにつながっていくと思う。ただ、なかなか今、日本の国の言葉について子どもたちが興味を持ってない、なかなか持ちにくいという状況もあるということも分かっている。だから丁寧に学習の進め方を教えるのか、それとも、児童が疑問を持って学習に取り組めるように、自ら課題を持って取り組めるようにするのかというところで各者の方向が分かれているようにも思った。

私としては、丁寧に学習の進め方を示してあるB者やA者も良いとは思いますが、それぞれ子どもたちが何を学ぶか、どんなことに自分は疑問を持って、どんなことにこれから取り組んでいくのかということを考えやすく構成されているC者の教科書はとても良いと思った。

後 藤 委 員 私もC者が良いと思う。どうしても主語、述語はこれだというのが伝わらない児童も多いので、文法の教え方が、C者はどんな児童でも理解しやすい形で文法を教えられると思う。だから、C者の教科書を使ってほしいと思った。

庄 司 委 員 私はB者が良いと思う。最初に「言葉の力」というところで、明確にそこで学ぶべきことを見通して、取り組むという、一つ一つステップを踏み、確実なものにしていくという、全体的に共通性がある、それぞれの個人での力につながっていくと感じる。

川 又 委 員 私はB者の教科書が良いと思う。小説や物語だけではなく、説明文など、ある意味では自分の意見の表明、疑問の表明というようなところを随分強調している。これからそういうところは社会で生きていく子どもや大人にも重要かと思い、B者と考えた。

教 育 長 そうすると、3者あったが、B者かC者かというところに今絞られたかと思うので、もう少し意見を出していただきたい。

花 淵 委 員 分かりやすいのは、B者とC者で同じ教材を扱っているところだと思うので、両方の教科書の4年生の上巻に載っている「一つの花」のところを見てみたのだが、B者だと134ページでC者だと71ページにある。B者の場合は、「言葉の力」ということで2ページを使って、ここで学習するのはこういうことなんだよということを示しており、ここで1時間授業をするのだと思う。先生方はここで今日から勉強する「一

つの花」というのはこういう流れになっていると説明して、「一つの花」という実際の文章に入っていくという形になっている。C者の場合は、「一つの花」と書いてあって粗筋が書いてあって、目当てとこれまで学習したことが書いてあるが、恐らくC者では、すぐ本文の学習に入っていく流れになると思う。そうなったとき、私はやはりB者のほうが文章に実際に入っていくときに、学習に対してはより深まり、この単元ではこういうことをやっていくんだなと目的を持って学習に入っていけると感じたので、B者が良い。

教 育 長 同じ教材を使っているということで、比べていただいた話だった。

梅 田 委 員 多分、同じ単元でも、A者とB者とC者でそれぞれ幾つも重なるところがあるので、また、出てくる場所についても、巻の中ほどで出てくるのか終わりのほうで出てくるのかということもいろいろあって、それぞれ扱いに違いがあると思った。表現の仕方も、同じ作者のものを扱っていても若干表記の仕方が違うということもあるので、各者それぞれの使い方があるのだろうと思う。ただ、私は、最初に子どもたちが、どういことを学びたいか、何を学びたいかということ疑問に思ったり、課題を持ってその教材に入っていく、そして教材で分かったことを発表しながら深めていくという形も一つの授業の在り方だと考えている。

一方で、2年生の下巻の教科書では、A者もB者も「お手紙」という教材を使っている。これが出てくるところがC者は下巻の最初のほうでB者は下巻の終わりのほうなので、2年生の下巻のB者は114ページから、C者は2年生の下巻の冒頭なので13ページから出てくる。最初は今話したような入りだが、終わりのところがそれぞれ、C者もB者も6年間通して同じ形で終わる流れになっている。B者は感想を伝え合うということで、見開き1ページでお話を読んで自分と比べて感想を持ち、友達と伝え合おうということで終わっていて、次の130ページにどんな感想を持ったか、友達の感想を聞いてどう思ったか振り返るようになっている。C者は、問いを持つところから、どんなふうに目標を持ったか、そして「ふり返ろう」で「知る」「読む」「つなぐ」というところの後に、また次のページに登場人物と自分を比べて感想を持つというページがあって、その後また「ことば」というところで、主語と述語というような文法について、この「お手紙」という物語を取り上げて丁寧な解説が2ページにわたって記載されている。それぞれの上巻下巻のどのあたりで取り扱うかで少し丁寧さに差は出てくるのだと思うが、私は、疑問を持って一度読んでから中身について深く考えていく、掘り下げていくという形が児童が主体的・対話的に学ぶというところに結び付いていくのではないかと考えて、C者が良いと思っている。

教 育 長 単元に入るときのアプローチの仕方についてそれぞれ話があった。他にこんな見方があるのではないかという意見などがあればいかがか。

後 藤 委 員 6年生のB者の教科書で戦争に関する物語「ヒロシマのうた」を載せているが、現在の教科書では真ん中のところ取り扱って、しっかりと教えられるようになっていた。大変良い教材だと思うので、これは本当に教えてあげたい。いい教材をB者は取り扱っていると思うが、ただ、前は中央にあってしっかり学んでいたが、今回は巻末270ページ、271ページに置いて、冒頭部分だけを載せて、あとは二次元コードからアクセスして各自読みなさいという形にしている。これは授業でやるのかが疑問で、これを授業で取り上げれば良いのだが、あとは自分で読みなさいということで授業で取り扱わないのであれば、私はきちんと児童に教えてほしいと思っているので物足り

ない。

教 育 長 それぞれの教科書の特長やここが良いのではないか、それも含めて全体的なバランスなども見た上でいかがか。

梅 田 委 員 C者の6年生の教科書の226 ページで、「話すこと・聞くこと」というところで資料を使ってスピーチをすることが取り上げられている。B者も6年生の176 ページでプレゼンテーションをしようというところで、こちらも「話すこと・聞くこと」で全く同じ内容で、資料を使って提案するということが挙げられている。

つくりについて、差異はあるので、問いを持とうから目標へとか見通すという部分というような伝え方もそれぞれだと思うが、どちらかというところC者のほうは話す中身をどう考えていくか、スピーチをどうしていくかということを中心に考えられていて、加えて資料の準備ということが入ってくる。B者のほうはプレゼンテーションをどのように見ていこうかというようなことから考えられている。提案することや構成をどうしたらいいかということも考えるというところの流れは、多少の違いはあっても大きく異なるということではない。最後のC者は230 ページ、B者は181 ページに振り返るというところで、これはB者もC者もつくりは2年から6年まではほぼ同じだが、B者は聞き手に分かりやすく伝えるために資料などをどのように工夫してプレゼンテーションをしたかという大きな振り返り方だが、C者はこれも2年から6年全く同じで、「知る、話す・聞く、つなぐ」ということでそれぞれ振り返りの項目が立てられているが、「知る」では場面や聞く人に合わせてどんな言葉や表現を使ったか、「話す・聞く」では工夫したところはどんなことか、「つなぐ」ではこれから自分が考えを伝えるときにどんなことに気を付けたいかというように、それぞれに少し深く振り返りがされていて、このあたりは、今の子どもたちというか仙台市の子どもたちにも是非身に付けさせたい力だと考えているので、難しい中身ではあると思うが、少し深めるということも考えながら先生方にこの教科書を使っていただくと良いと考えていた。

教 育 長 振り返りの話まで含めた話があったが、いかがか。いろいろ皆さんから話はいただいたが、なかなかこちらがよいというところに進まない状況なので、「国語」については、前回の「保健」と同じような形になるが、次の「書写」が続くので、再審議として進めたいと思うが、よろしいか。

(異議なし)

教 育 長 では、そのような進め方にさせていただく。

### 【書写】

教 育 長 「書写」について協議を行う。事務局から、学習指導要領の目標などについて説明をお願いします。

教育指導課長 担当指導主事から説明する。

指 導 主 事 小学校「書写」について説明する。

小学校「書写」では、「国語」の目標と同様である。

協議会において取りまとめた小学校「書写」の全発行者の特長は、別紙資料1、報告の別紙1の13 ページにお示ししている。

主な特長について、まず、A者は「書写のかぎ」で系統的に整理された学習のポイントが明確に示されており、児童が分かりやすく学ぶことができるように配慮されて

いるということである。

次にB者は、「石巻日日新聞」など文字の持つ力や大切さについて考える教材を通して、防災教育等と結び付けながら、日常生活に生かせるように配慮されているということである。

次にC者は、穂先の通り道や筆圧など、基本となる筆使いが分かりやすく示されており、ポイントをイメージしながら表現することができるように配慮されているということである。

教 育 長 ただいまの事務局の説明に対して、質問等があればお願いします。

(質疑なし)

教 育 長 それでは、委員の皆さんに各発行者の教科書見本本についてご意見をいただきたいと思う。

山 田 委 員 3者とも、学年に応じて鉛筆、毛筆とステップアップしながら、いろいろな題材を基に書いていくという流れになっていると思う。

A者は各単元に「書写のかぎ」というのが設定されていて、大事なポイントがまとめてあるのが良い。悪い例を出して、どちらが良いか、どうしたら良くなるかというのを考えさせ、自分で考えて理解して書くというのが良い流れになっていると思う。それから、年賀状とか古文、俳句、世界の文字など様々な題材を取り上げていて、それが参考になると思う。

B者は、「考えよう」で例を見て、どちらがよいかを考えて、「確かめよう」で実際自分で書いてみて、「生かそう」で学習したことを生かすという流れになっているのが良いと思う。また、漢字の歴史やパンフレット、手紙、ポスターなどの書き方の説明が入っている。さらに、全巻を通して猫がモチーフで入っていて、児童に親しみやすく、また覚えやすい、理解しやすいと感じた。

C者は、こちらも最初に試し書きを行ってから改めて目当てや大切なポイントに注意し、最後にまとめ書きをするなど、自分で確認しながら学ぶ流れになっている。また、いろいろな資料を制作したり古典を書いてみたりする活動が設定されていて、日常生活に生かすことができるように工夫がされている。こちらは、右に例があつて左に注意ポイントがあるという見開き2ページで完結するというのが分かりやすい。

庄 司 委 員 3者ともに共通して、まず鉛筆の持ち方とか筆の持ち方の等身大の写真やイラストが大変分かりやすい。書くときの姿勢や、正しい持ち方は大変重要だと思う。そういった点が3者ともしっかりと書かれていたので大変良いことだと思った。

A者は、「書写のかぎ」では文字を書くためのとても大事なポイントがまとめてあり、大変学習が進めやすいと感じた。「見つけよう」、「確かめよう」、「生かそう」の3段階の構成で、一つずつ段階を踏んで学習を進めることができるので大変良いと感じた。

B者は、こちらは、スタートブックに「しょしゃ体操」というのがあり、リラックスしながら集中して取り組むことができるよう工夫されている点は、他者にはない点だが、これも大変良いと私は感じた。書いた後の整理体操は説明は特になく、動画で見られるように二次元コードが掲載されていた。それぞれにねらいが明確にあり、学習の進め方で大切なポイントが書かれてあり、自主的に取り組める工夫がされていると感じる。漢字の「部分の組み立て方」のところでは、例えば、三つの部分からできている漢字をどのように気を付けて書くと形が整うかについて分かりやすい説明が

されており大変良いと感じた。

C者は、学習ごとに目当てがあり、また「ふり返ろう」では自分なりの評価をその都度できるようになっており自主的に取り組める工夫があると感じた。

花 淵 委 員 A者については、年賀状や古文、俳句、日本の伝統的な文化や、世界の文字などに触れており、非常に日本や外国の文化、生活を尊重しているという感じがした。また、「書写のかぎ」が、非常に分かりやすく、発達の段階に応じて、学年に応じて具体的に示してあってよかった。

B者は、問題解決的な学習プロセスとして「考えよう」「確かめよう」から「生かそう」の三つが明確になっていると思った。左利きの子どもに対して二次元コードで動画が見られるようになっており、配慮がなされていると感じた。

C者は、「ぼうさいかるた」を作る活動が入っており、防災教育との関連を図っていると思った。運筆で、「トン、スー、ピタ」のような擬音を使って児童に分かりやすく表現している点が特に印象に残った。

梅 田 委 員 3者とも文字が中心になるということを非常に意識されていて、すっきりと文字が見やすい配列、体裁になっている。

A者は、鉛筆の持ち方について1年生の導入部分で自分の持ち方を確かめてみようというところから始まっており、児童が興味を持って取り組めるよう工夫がなされていると思った。「書写の学び方」というのも示されていて、生活に広げていくという視点も示されていた。また、「生活に広げよう」では、ノートの書き方やあるいは新聞づくりや委員会のリーフレットづくりなども取り上げていて、単純に文字を練習するだけではなくて、いろいろな文字を書いてみるという広がりを感じさせられた。また、単元ごとに「ふり返ろう」の欄があって、児童が個々にチェックできるようになっていた。文字の構成も、色分けして分かりやすく示されていたと思う。

B者は運筆について、言葉での表現があって、少し丁寧に「スーッと来てピタ」や「スーッと軽く飛び立つよう」などと、児童がどのように書くかイメージしやすいように工夫がなされていると思った。1年生から3年生は「書写のやくそく」、4年生から6年生は「考えよう」「確かめよう」「生かそう」というような学習の流れが冒頭に示されていた。「やってみよう」とか「もっと知りたい」という項目について、特に高学年だが、そこで取り上げられている内容が、石巻日日新聞のように防災やユニバーサルデザイン、性の多様性、人種など様々な内容が取り上げられているので、先生方がどう使うかだが、文字に対する幅広い考え方や子供たちの多様性についての考え方を広げていけるように工夫されていると思った。また、6年生の教科書には「書写ブック」という部分があって、1年生から6年生までの学びを振り返ることができるようになっているのも特徴であると思った。

C者は平仮名の導入として、生活の中の言葉を探すところから丁寧に内容が示されているところがよい。また、単元の冒頭には扱う文字が大きく示され、次ページから説明が始まるという流れとなっており、何を学ぶかつかみやすい。「知りたい 文字の世界」には、文字に関する様々な情報が掲載されており、児童の文字に対する関心を高めるのに役に立つと思う。

川 又 委 員 まず、ABCの3者に共通して「国語」、「書写」という順で自分では見ていたが、その際にふと思ったことは、「書写」のほうでは、1年生の最初のページから平仮名が多数出てきて、幼稚園から小学校に入るときの接続を意識した導入というようなこ

とはあまり考えられていないのかなと思った。ABCの3者で共通して、国語では導入部分が長く、それから段階的に文字から文章になり、最終的に6年生でかなり複雑な物語を読んだり、説明文を書いたりするが、書写では導入部分があまりなく、最初から小さい文字で教科書が書かれていると思った。それは私の理解では、書写では、言語の活動や言語の内容ということではなくて、言語の図的な表現とそれから美術的な表現、よく伝わる表現というような、単語や文字などそのものを扱うようなスタイルになっていることが私の全体としての感想である。そういう部分はABC共通であったと思う。また、ABC共通して、鉛筆や筆の持ち方、書く姿勢等が全て非常によく示されていると思う。様々などじ込みの付録等があり、学習意欲を高めるような工夫が全体としてされている。

A者については、技能者や文化人へのインタビュー等があり、社会で活躍している人たちの文字に込めた思いや文字に対する敬意といったものがよく理解されるように掲載されていると思う。文字に関連する他文化への敬意や世界の中での様々な文字について紹介されている。

B者では、SDGsの観点で書写の様々な課題が述べられていると思う。墨汁や紙などとSDGsとの関連という意味である。文化人からのメッセージがあり、これも児童が書写に対しての興味を引くように工夫がなされていると思う。書写に関連する現代的な問題、課題として、動画、電子メールやパンフレットの作成、新聞の作成などの実用的な事例が多数取り上げられている。

C者では、手紙やはがき、ポスター、リーフレット作りというような日常生活での実際的な書写に関連する活動がよく整理されて記述されていると思う。文字や書写に関しての歴史的な側面や文化的な側面が非常によく書かれている。

後ほど質問したいこととして、書写というものの目的で、先ほどの指導主事からの説明でいうと書写の目標も国語と同様ということだったが、ABCの各者の教科書を見ると、書写では特段、言語活動という側面が薄くて、どちらかという図画工作などの芸術的な側面があり、言語活動の言語の内容そのものにはあまり踏み込んでいなくて、どちらかという外面的な形態のほうに力を置いているのではないかと思ひ、それに関して指導主事からいろいろとお伺いしたい。

後藤委員 まずA者は、気を付ける点を「書写のかぎ」としてまとめてあり、教科書のいろいろなページで『書写のかぎ』を確認しよう」と注意喚起が行われている。私は最初、そのページの中に「書写のかぎ」がなかったので、どこだろうと思って少し迷ったが、一番後ろのページにまとめてあったので、これはまとめることによってきっと児童はわからないところを一度で理解し、あちこち分散させずに集中させるということが基礎的・基本的な知識・技能の習得には役に立つのかと思った。

B者は、鉛筆の持ち方がとても分かりやすかった。1年生、6歳の子どもが見て、自分でできるよう工夫されていると思った。初めて字を書く児童でも無理なく正しく鉛筆を持つことができると感じた。全体として要点をよく押さえており、必要な情報が伝わりやすいと思う。また、2年生で原稿用紙の使い方を詳しく説明しており、2年生で原稿用紙を使って文章を書くこともあるので、1行空けるということや句点をここに記入するということなど理解しにくい点を書写の教科書でしっかりと学習できるように配慮されている。他者は3年生で出てくる。

C者は、とても丁寧に細かい注釈があつて、丁寧な指導ができる。情報量も多くあ

り、基礎的・基本的な知識・技能の習得とともに発展的な学習が期待できる、そのように配慮されている教科書だと思った。

教 育 長 一通り皆さんからご意見をいただいた。この後、さらに確認したいこと、あるいは質問などもいただきたいと思うが、まず、先ほど川又委員からあった国語と書写との関係などについて、説明いただければと思う。

教育指導課長 担当指導主事からご説明する。

指 導 主 事 書写は国語科の指導事項の一つである。国語科の内容は、知識及び技能、思考力・判断力・表現力等から構成されており、そのうち書写は知識及び技能（3）我が国の言語文化に関する事項に整理されている。文字を書く基礎となる姿勢、筆記具の持ち方、点画や一文字の書き方、筆順などの事項から、文字の集まりの書き方に関する事項へと内容が系統的に示されている。さらに、文字や文字の集まりの書き方を基礎として、筆記具を選択し効果的に使用するなど、目的や状況に応じて書き方を判断して書くことについて学習指導要領に示されている。

指導の時期や時数について、毛筆を使用する書写の指導は、第3学年以上の各学年で行い、各学年、年間30単位時間程度を配当すると示されている。1年間を通して書写の指導を国語の中で行うこととなっている。

川 又 委 員 1年生で書写を勉強する、実際のスタートは何月ぐらいになるのか。

指 導 主 事 4月から行っている。

川 又 委 員 それで、私の疑問は、国語の教科書は非常にゆっくり、日本語や平仮名など普通に日本語を勉強していくようなスタイルになっていて、4月から当然始まると思うが、書写のほうはその国語のタイミングと合っていないくて、1年生の最初から、多くの文字が、大きい文字、小さい文字、いろんな形の文字として出てくるということで、簡単に言うと書写の教科書は多分読むようにはできていなくて、見て一通りお手本と同じような動作をする、作業をするというようなスタイルの教科書だと思った。国語は言語活動なので、必ず文字を読んで、できるだけ声に出して内容も理解していくということだが、書写はどちらかというとならずに見る教科書のスタイルだと思った。

指 導 主 事 国語で学習した内容を書写で生かしたり、また書写で学んだことを国語の授業で生かしたり、国語の話し合いや書くことの学習、読むことの学習で学んだことと関連付けながら学習を進められるように構成されている。

教育指導課長 今指導主事から話があったとおり、国語の授業の中の書写というのは一部分の内容として取り扱っているものということになる。年間で取り上げる時間数というもの先ほどお話ししたとおりだが、通常、例えば国語の授業、小学校1年生となった場合に、4月ぐらいから書写の授業は実施するのかということであるが、例えば平仮名の授業をしていくときに、最初から書写という形でやっていくのではなく、例えば「あいうえお」という平仮名があれば、一つ一つ最初はその書き方あるいは筆順などについて国語の授業の中で書くことを通して学習していくということになる。

書写に関しては、先ほどお話ししたとおり形を整えるなどという趣旨もあるので、例えば鉛筆を使って、いわゆる硬筆というが、そういった形で授業をしていくのは、必ずしも書写だけに限定して行っているというよりは、国語の授業の中で進めながら書写の授業も一緒に進めていくという内容になっている。

川 又 委 員 国語と書写をある意味一体化していて、科目としては国語の科目の授業の中で、国語の教科書も使うし書写の教科書も使うというようなやり方であると理解した。そう

すると、書写のスタートは4月の本当の一番最初からではなくて、少し遅れてスタートするということか。

教育指導課長 実際の授業というところでは、国語の授業で既に文字を書く練習がスタートしているので、それを受けて、文字を覚えながら徐々に書写という形での授業に入っていくという形になる。

教 育 長 そのほか確認をしておきたい点があればお願いします。よろしいか。

(質疑なし)

教 育 長 それでは、これまでお話しいただいたことも含めて、どの発行者の教科書がよいかご意見をいただきながら1者に絞り込んでいきたいと思う。発言をお願いします。

山 田 委 員 この三つを見てどれも良くて決めかねていたが、B者の猫で示されている書き方、「折れ」とか「折り返し」とか「止め」などのイメージというのが児童にとっては見やすいかなという気がしている。

インタビューメモの書き方がB者の5年生の教科書10ページにある。速く書く書き方というのを、A者とB者は見付けられたが、C者は見付けられなかったが、こういうちょっとした書き方の工夫みたいなものも、この先社会に出たときには必要である。

梅 田 委 員 どの発行者も大変工夫されているので、良いところがそれぞれあると感じている。各者とも、水で書くお習字の水書用紙も付録として付いており、文字の流れや運筆などを水書で確認できるようになっているが、B者の1年生の教科書の巻末、1年生で習う漢字の最後のページだが、他の発行者では見付けられなかったが、空書、空書きというのか、運動で覚える書き方も示されている。動きで覚えていくほうが覚えやすい児童もいるので、先生方は1年生の指導ではやっているが、このように空書という書き方もあるということを示してあるのはとても良いと思った。私自身は、先ほど庄司委員もおっしゃっていたように、準備体操とか整理体操も含めて、1年生から6年生まで文字を書くのが嫌いという児童もいると思うが、そういった児童に対しても取り組みやすく、目標を持って取り組めるような工夫があるので、B者がいいのではないかと考えている。

庄 司 委 員 私もB者を推したいと思う。理由だが、3者それぞれに、例えば指でなぞるとか、1年生であれば、初めから小さいまですに字を書くのではなくて、その前になぞってみる、大きな字で書いてあるというのが大変良いと思うし、それは本当に共通して3者全て書かれているところだと思う。

例えばB者だと6年生の6ページにある「部分の組み立て方」という、漢字一つが三つの文字からできているというところについて、A者だと18ページに載っておりC者は13ページに載っており、それぞれ同じことを全部取り上げているが、特にB者は、6ページに「働」は、「人」「重」「力」とこの三つが組み合わさって一つの漢字になるが、アとイの違いという、そのまま三つの文字を並べて書いたものと、細めに書いてみたり少し斜めにしたりしてバランスよく書いたものを比較できるようにしており、大変分かりやすい。隣の猫のキャラクターも漢字の動きに伴って、下が空いているところは猫が少し上のほうに向いていたりとか、言葉だけではなくてキャラクターを使うことで大変分かりやすいと感じた。本当に書く力というのは1年生から基本だと思うので、先の「しょしゃ体操」もそうだが、楽しく取り組めると思う。

後 藤 委 員 私もB者を推す。1年生が学校に入る前に先生から「とりあえず自分のお名前だけ

は平仮名で書けるようにしてください」と保護者は言われる。名前だけは書ける状態にして小学校に入学するが、B者の教科書は最初のページに自分の名前を書こうというスペースがあって、「うちのひとからのおうえんめっせーじ」という欄もあって、文字に対しての熱い思いというか、気持ちが伝わってくる教科書だと思った。「石巻日日新聞」の記事もそうだが、文字というものの持っているパワーのようなものを伝える教科書だと思う。

巻末にある水書用紙も、一つのマスが四つに区切られている。四つの部屋は平仮名を1年生に教えるときにとても大切になってくる。1、2、3、4の四つの部屋、どこから始まってどこを通過するというのが付いているのは学習に取り組みやすいのではないかと思った。

教 育 長 ここまでの話を伺うとB者を推すという意見が多かったと思う。1年生の導入であったり、キャラクターの使い方であったり、体操などの取り組みやすさの工夫などというお話があったかと思う。そういったことを総合的に見るとB者かと思われるが、よろしいか。

(異議なし)

教 育 長 それでは、「書写」については、ご議論いただいた内容を採択理由として事務局で整理した上で、7月25日に最終的に決定したいと思う。

それでは、ここで休憩に入りたい。

(休憩 午後3時44分～午後3時55分)

#### 【算数】

教 育 長 それでは、協議を再開する。

「算数」について協議を行う。

事務局から、学習指導要領の目標などについての説明をお願いします。

教育指導課長 それでは、担当指導主事から説明する。

指 導 主 事 小学校「算数」について説明する。

小学校「算数」では、数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して数学的に考える資質・能力を育成することを目標としている。

協議会において取りまとめた小学校算数の全発行者の特長は、別紙資料1、報告の別紙1の15、16ページにお示ししている。

主な特長について、まずA者は、巻頭の「算数の学び方」では、ペアやグループなど学び合いの仕方が提示されており、対話的な学びができるように配慮されているということである。

次にB者は、1単位時間の授業の流れが分かりやすくまとめられており、ノートの記録の仕方を例示したりするなど、基礎的・基本的な力の育成につながるように配慮されているということである。

次にC者は、数学的な見方・考え方を「考え方モンスター」として整理し、筋道を立てて考えることができるように工夫されているということである。

次にD者は、「はてな?」「なるほど!」「だったら!？」を学習の基本の流れとして、数学的活動が展開できるように配慮されているということである。

次にE者は、巻末に「学びのサポート」を配置し、児童が学習状況に合わせて取り

組むことで、基礎的・基本的な内容の定着が図られるように配慮されているということである。

次にF者は、巻頭に「学び方の4ステップ」を示し、学習過程の流れを知り、問題解決学習を進めることができるように配慮されているということである。

教 育 長 ただいまの事務局の説明に対してご質問等をお願いします。

(質疑なし)

教 育 長 続いて皆さんから発行者の教科書見本本についてのご意見を順番にいただきたいと思う。

庄 司 委 員 先に6者共通して良いと思ったところからお話したいと思う。目次には單元ごとに前の学習、後の学習という表記があり、習う單元がどんな学習につながっているのか、その前後が大変分かりやすく表示されている。それがあって、とてもステップアップしやすいと感じた。逆に、該当の單元が分からない児童は、何年生のどこに戻ったら分かるのかという、そういった使い方もあると思った。各者によって少し表現の仕方は違うが、「ノート書き方」、「マイノートをつくろう」、「ノート名人になろう」など、算数のノートの書き方や活用の仕方などが詳しく載せられていて、自主学習のヒントがたくさん詰まっていると感じた。

A者は、單元ごとに確かめ問題というのがあり、学ぶべき大切な見方や考え方を確認しながら進められるようになってきている。「プラス・ワン」では練習問題の補充問題が載っていて、個人個人で自主的に家庭であったり、例えば教室で早く終わったときなどでも自主的に取り組めるよう工夫されていると思った。「おうちで算数」というところが1年生から3年生にあるが、家庭との連携で、アドバイス、算数で習ったところが家庭でも生かせるようにといったちょっとした工夫があって、家庭を巻き込むということではとても良いと感じた。

B者は、補充問題やチャレンジ問題など個人個人のスピードに合わせた学習ができるように工夫がされている。「今日の深い学び」で自分の考えとまた友達の違った考えを比較検討するところがあり、協働的な学びにも配慮されていると感じた。

C者だが、「もっと算数」に補充問題が載っていて、こちらも自主的に取り組める工夫があった。「考え方モンスター」というキャラクターで、数学的な見方や考え方がとても分かりやすく示されており、順序立てて考え、進めていくことができると感じた。

D者は、「はてな?」「なるほど!」「だったら!?'という吹き出しが連続していて、考え方のサポートがあり、そのサポートがあるおかげで自主的に無理なく学習を進められるよう工夫されている。また、練習問題が多く、基本的な学習内容が身に付くように工夫がされていると感じた。

E者は、巻末の「学びのサポート」の中に「もっと練習」という、学習した問題に似ている問題や少し難しい問題のコーナーなどもたくさん載っている。また、復習問題だけではなく、新しい学習に入る前に準備しておく問題コーナー「じゅんぴ」というものもあり、新たな学習にもスムーズに入れるような配慮がされていたところがよいと感じた。

最後にF者だが、「算数マイトライ」では個人個人の学力に合わせて取り組めるよう工夫されていると思った。問題の考え方のヒントなどが吹き出しで大変分かりやすく、自主的な学習ができるような配慮を感じた。

花 渕 委 員 A者は、まず幼稚園、保育所との関連、中学校との接続を意図したページを設置しているということを感じた。特に1年生は最初に大きな判の教科書が入っていて、スタートブック的な感じになっていると感じた。特に基礎・基本の徹底を図る問題と習熟度別に自分で進められる問題が工夫して配置しており、自分のペースに合わせて学習を進められるのではないかと思った。

B者は、6年生では数学との接続を意識していて、算数で習ったことが数学、中学校に行っても生かせるように、中学校の数学へのいざないとなっていると感じた。既習事項を生かして同じように考えるとということ、数学の特徴であるスパイラルな考え方として、つながりを継続して学習を進めていくというところを児童に意識させており、数学的な思考を育むことにつながるのではないかと思った。それから、二次元コードでオープニングムービーが配置され、児童にとって学習の動機付けにふさわしいと感じた。

C者は、「中学校への架け橋」が別冊で付いていて、中学校への接続が図られる工夫がしてあると思った。間違いやすい内容とか苦手とする内容に関しては、「算数パトロール」というページがあって、そこで児童自身がこういうことだったのかと自分で気付くことができるようなページも設けられており、良いと思った。

D者は、「学びのマップ」というのが作られていて、学年を超えて既習事項を振り返られるようになっている。自分の今学習している内容が何年生のどこと関係するのかが気づく意味でも大切であり、基礎・基本の定着にもつながるのではないかと思った。学習のまとめに動画を活用できるよう、二次元コードを配置し、知識や技能のまとめを視覚的に学べるようにしているので、今の児童にとっては非常に効果的ではないかと思った。

E者は、1年生で分冊でスタートブックというのを設けており、その中で算数の学習につなげられるような工夫がしてあると思った。それから、学年ごと、つまりきの多い既習事項を丁寧に説明している。算数の場合よくあると思うが、同じところで何度も間違えることがあるので、既習事項を丁寧に説明しているということを感じた。

F者も第1分冊があって、就学前のときの遊びや生活と算数との関連性や連続性を示しているのも、これも大変良いと思った。それから、「算数マイトライ」というコーナーは、家庭学習で、個に応じて個を伸ばす学習の充実を図っていると感じた。

梅 田 委 員 どの発行者も1年生の算数の導入についてはとても丁寧に考えられていて、今回の6者のうちでも、スタートブックのような、最初に使う分冊が4者にある。それが無い発行者もとても丁寧に1年生の最初の導入の段階を取り上げているのは、やはり大事な部分かと思った。また、二次元コードも多く配置されていて、そしてタイトルがあって何が書いてあるのか分かりやすく示されているものも多く、児童にとっても、あるいは使う教師にとっても分かりやすいという感じはした。

A者について、全学年に「算数の大切な考え方」のページがあって、見開きで学んだことを書きこむような工夫がされていた。上下巻ではなく1冊なので、目次で学年で学ぶ全体像を把握できるよう工夫されていると思う。各単元の初めにはこの単元のテーマとなる問いが示されていて、児童が生活の中の出来事と結び付けて考えられるように工夫されていると思う。5・6年生では中学校数学の内容にも触れられているところも特色かと思った。各単元で確かめ問題があって、定着度を確認できるようなものもあったり、少し難しいプラス・ワン問題などもあり、さらに学んでみたい児童

はそちらをやっていくこともできるということが特長だと思う。各ページ同じ単元の色で統一されているのも見やすいと思った。

B者について、目次では、学年で学ぶ内容だけではなく他学年のどの単元につながるか、それが分かりやすく示されて、系統的な学びを示していた。各単元の初めには左ページに生活や学習の中での問いが示されて、それを単元で学ぶというように示されているので、児童が問いを持ちやすく、算数を身近に感じやすいという点に工夫があると思った。「新しい算数プラス」というのが下巻の巻末にあって、補充問題やチャレンジ問題によって、さらに発展学習に進めるというところも特長かと思った。

C者について、前の学年で見付けた考え方が次の学年の冒頭に見開きで示されているので、前学年の学びを踏まえた系統的な学びができるように工夫されている。各単元の初めには「はてなを発見」というページがあって、他者にもあるが、C者は疑問から学びがスタートするところに力を入れているのだと思う。先にも話に出たが、別冊で「中学校への架け橋」というのがあって、中学数学についての紹介があるのも特長かと思った。「学びを生かそう」では、できるようになったことを生かしてチャレンジする発展問題もあり、児童がさらに発展的に考えることができるような工夫がされていた。C者だけ装丁が他者と違って少し幅広なので、その分内容がゆったりと示されていたのではないかと思う。

D者について、2年生以上だが、冒頭に「みんなで算数をはじめよう！」というところがあり、つかむ、考えを持つ、話し合っで深める、まとめる、つなげる、広げて考えるなどという学び方の柱が示されていた。また、前の学年の学びが1ページにまとめられていて、次のページには大切にしたい算数の考え方と、変わらない考え方も示されていて、それらを踏まえて系統的に学ぶことができるように工夫されていた。また、各ページにある確かめよう問題には顔マークのチェック欄があって、振り返りができるように工夫されていた。

E者について、私はスタートブックがとても良いと思った。特に、他者のスタートブックと比べても、導入段階の数処理の部分や数概念の導入がとても丁寧に行われていて、このスタートブックだけ皆で使っても良いのではと思うくらい丁寧に作られていた。全体としては、初めに教科書の使い方や算数の学習の進め方が統一して示されていて、また「みんなで話し合おう」という項目が見開き2ページで示されていて、算数だけでも、話し合いで深めていく、対話的な学びがかなり重要だと示されていると感じた。巻末には「学びのサポート」があって、「じゅんび」「もっと練習」「学びをつなげよう」という形で発展的に学ぶことにもつながるようになっていた。

F者について、先ほど他の委員からも出たが、「学び方の4ステップ」が2年生から6年生まで通して示されていて、系統的な学びができるように工夫されている。F者は単元の最初に「次の学習のために」という、予習のようなページがあって、その単元に入る前に丁寧に次の単元で何をやるかという準備をしてから入れるように、スムーズなつながりになるように工夫されていた。F者も巻末に「しっかりチェック」「ぐっとチャレンジ」「もっとジャンプ」というページがあって、さらに発展学習ができるようになっていた。また、F者はまとめとなる表現については各学年とも同じ色でまとめられていて、ここがまとめの部分なのだということが分かりやすく示されていた。

川 又 委 員 A者は、1年生の入門期用の分冊は、導入のページが絵本風で非常に楽しくなって

いて、児童が数学の開始によくなじむようになってきていると思う。それから、算数というものの広がり、多分地理や建築、コンピューター、それから点字、そういうものへの広がりについてよく記述されていると思う。また、「なるほど算数教室」があり、ここでは科学者の伝記とか文化人へのインタビュー等も書かれており、数学への興味を引くようになってきている。さらに、書き込みのスペースが適切に配置されていると思う。これによっていろいろな確かめ算、自身での復習、深い理解ができるようになってきていると思う。

B者は、書き込み欄が多数あり、形や配置が非常にはっきりとしていて分かりやすいものになっている。また、図版の配置や空白の置き方が適切で、非常にすっきりした紙面になっていて、長時間使っても疲れのないような紙面の配置になっていると思う。それから、表紙も算数の教育の一環となっていて、学年ごとにだんだん抽象化した表紙、高度化した表紙になっていて、それが最終的には中学校への数学に結びつくような方向性が表紙にも裏表紙にもある。それからもう一つの特長として、この科目は算数だが、算数と他の教材、地理や理科、プログラミング、そういうものについての関係性がよく示されていて、特に理科との結び付きが非常に強い。理科的な算数の教科書というふうに思った。

C者は、「考え方モンスター」というキャラクターが多数提示されていて、いろいろなモンスターの名称によって、算数的な考え方、方法、算数的な整理の仕方、そういうものが非常に分かりやすく、1年生のときから分かりやすく算数的な考え方、整理の仕方ができるようになってきていると思う。プログラミングとの関連や、プログラミングの内容もあり、1年生の下巻から「プログラミングのプ」でカードを使ったプログラミングの教育がされているところが特長かと思う。もう一つは、5年生の上巻から、教科書の索引では日本語の単語だけではなく、英語の表現も、英語の単語表記がされているところが目についたところである。算数の教科書の内容とプログラミング、それから算数の用語の英語表記に関して後ほど簡単な質問をさせていただければと思う。

D者は、表紙と裏表紙に非常に教育的なイラストが描かれていて、算数の基礎的な概念や効用、身近な事例というものをこれで理解させようという工夫があり、小学生によくなじむような表紙の構成かと思う。それから、内容的には身近な自然や生活に関連する題材が非常に数多く取り上げられている。最終のところのページには最新の科学技術に関連するような話題、算数と科学技術の関連性等が書かれており、現代的な教科書になっていると思う。

E者は、1年時のスタートブックが別冊として作られていて、このイラストや写真が非常に工夫されていて、算数の学習に児童がよくなじむようになってきていると思った。さらに、算数によくなじむようにという意味でいうと、説明の文章の改行位置が文節ごとになっていて、ただ単に四角形の中に文章を入れるということではなく、文章の改行位置が文節ごとになっていて、文章の意味がよくくみ取りやすくなっていると思う。算数が不得意になる一つの原因は、算数においてもやはり日本語の文章の読み取りが一番重要なところなので、文章の読み取りの負担の軽減ということがその改行の配慮で十分にできていると思う。それから、付録のページが図画工作のようになっていて、これも非常に楽しいものになっていると思う。それから、表紙、裏表紙のデザインも数学の内容に即したものになっていて、カメラを用いて数学的な内容の確認を

することができるようになっている。6年生では様々な仕事をされている方々のインタビュー記事があり、そこでは算数と仕事の関係が述べられていて、読み物としても優れた内容になっていると思う。

F者は、全体として偏りが少なく、算数の目指すべき方向性とか算数の重要性をきちんと書いてある教科書であり、本当に標準的な教科書として優れたものになっていると思う。特に最初のほうの目次や項目も非常に単純化されていて、小学生が見てもすぐに分かるような内容を示していると思う。教科書の最後のほうの索引が日本語とそれに加えて英語も表記されているところが特長である。そのほかに、「レッツプログラミング」という項目で、全学年にわたって基本的なプログラミング、それから少し難しいプログラミングへというふうに、プログラミングの楽しさ、利用の仕方、有効性、そういうものが詳しく書かれている。

全体として私が思った少し特長のあるものとしては、プログラミング教育について、詳しく書かれている教科書もあるし、5・6年生のみで書かれている教科書もあるということで、算数とプログラミング教育に関しての関連性がどうなっているかというところをお伺いしたい。また、索引についても、日本語だけではなくて英単語で表記されているものもあるので、この利用の仕方について、実際的に利用できるのかどうか、そういうところについて後ほどお伺いしたいと思う。

後藤委員 各者でプログラミングに対してのアプローチがそれぞれであると思った。どこの発行者も恐らく力を入れているということが見てとれた。

A者は、まさにプログラミング学習を大変充実させている発行者だと思った。発展的な学びが可能だと思う。児童の興味・関心を引くような仕掛けもとても多いと思った。世界の時刻や日本の事件など、身の回りのいろいろな問題から算数への興味・関心を引き出している。児童は結構このような巻末のいろいろな雑学みたいなどころをとても楽しみに読むので、きっとここは読むだろうなと思いながら見ていた。

B者は、2年生の買物など、身近なところから実社会に生かせる算数というような例示が多かったと思う。身近な身の回りの数の仕組みみたいなどころからどんどん算数を発展させていっているのだから、学習に入りやすいと思った。こちらの発行者は恐らくプログラミングの学習とはっきり言っているのは4年生からだと思うが、コンテンツがとても充実していたので、4年生からスタートでも全然問題ないと思った。

C者は、親しみやすいキャラクターを設定して、児童が興味・関心を持てるように誘導していると思う。児童の多様な実態に合わせて無理なく取り組めるような工夫が見られた。

D者は、デジタルコンテンツが多く配置されていて、プログラミングの思考だけではなく、発展的な学習も可能であると感じた。読んでいて、構成が工夫されていてとても見やすいと感じた。教科書が見やすいというのは、多分子どもたちにとっては苦手意識がなくなるためには大きな要因だと思う。

E者は、覚えるべき要点が一目見て分かりやすいので、算数が苦手だという児童でも、本当にここは大切だから覚えなさいというところがきちんと覚えられる教科書なのだろうと思った。デジタルコンテンツも多く配置され、プログラミングの学習も1年生から順に入ってきており、分かりやすいと思った。付録も大変工夫されていて、無駄な付録がないというのは大変良いと思う。とても良い教科書だと思った。

F者は、しおり付きの教科書で、しおりが付いていることに少々驚いた。例示や解

説がとても分かりやすかった。6年生で「マテマランド」という読み物があったが、これも高学年になって算数が苦手だという児童もこの「マテマランド」という読み物は興味を持って、もう一度算数に取り組もうとするのではないかと。算数は難しいばかりではなくて、面白いのではないかと興味・関心を引く仕掛けであると思って、多様な個性や能力に対応しているのではないかと考えて見ていた。

山 田 委 員 どの教科書も算数の考え方を最初にきちんと提示しているという気がした。

A者は特に「算数の大切な考え方」や教科書の使い方を最初に提示していて、数学的な見方や考え方を最初にしっかり示している。それから、「算数たまたまばこ」というところで身の回りの算数を紹介していて、実際の生活で使う場面の問題、他者の教科書にもあったかもしれないが、例えばどの割引券で買うのが得か、どこが安いかというのは、実は一番生活で身近なところにあるので、そういったことが取り上げられているのはいいなと思った。それから、復習ページがそこまで学んだことを少し前まで振り返って思い出させて、繰り返しやるということで、問題数が比較的多く、繰り返し解く練習になっているというのが算数では一番重要なことかと思うので、練習問題が多いことは特長として良いのではないかと思う。

B者も流れは、見方・考え方、まとめ、練習問題という形で流れていくが、もっと学習したい場合に「新しい算数プラス」のコーナーが準備されていて、振り返りとか補充問題、チャレンジとさらにその先に進めるようになっていくのがいいと思う。それから、二次元コードが配置され、学習に入りやすいと思う。

C者は、こちら各章の最初にはてなで表して疑問をまずそこで考えさせて、そこから「めあて」で問題を提示して、練習問題をしてまとめをするという流れになっている。算数の考え方を、「考え方モンスター」が見開きでその学年に学ぶ解き方の例を示しているのがいいと思った。それから、先ほども出ていたが、各学年「プログラミングのプ」というページがあって、筋道を立ててプログラミングを考えるという手順が入っているのがよいと思う。

D者は、こちらも入り口が「はてな?」「なるほど!」「だったら!？」という順番で数学的な思考を発展させて、問題をどんどん解いていって、最後に「ふり返ろう」「たしかめよう」でテストを自分で行うような手順になっていて、しっかり理解ができるようになっていくのがよいと思う。「レッツ・トライ」で数学とかパズル、歴史、「社会のとびら」で数学の世界をさらに広げるとか、楽しむ仕組みがあるのがよい。「広がる算数」では、一歩進んだ応用例、円周率や素数、「学びの手引き」コーナーというところに直線の描き方やコンパスの使い方、そういったことが丁寧に載っているのもいいと思う。

E者は、自分で考えて、ここを皆で話し合う、そして確かめて振り返る、その皆で一緒に話をしながら対話型で理解を進めるというのが良いと思った。それから、1年生のスタートブックが薄くて軽くて、大きな字でイラストがあって分かりやすいと思った。他者の教科書は少しインクの臭いが強いのがあったが、この教科書はほとんどインクの臭いがしないのがいいと思った。

F者は、こちら「どんな問題か考えよう」「学び合おう」「ふり返ろう」という形で算数の学び方を最初に示している。「算数マイトライ」に「しっかりチェック」「ぐっとチャレンジ」「もっとジャンプ」などと応用問題までいろいろ対応しているのがいいと思った。また、先ほどもあった「マテマランド」というところが非常に面

白くて、親しみやすさを持てるというのが良いと思う。こちらも1年生のスタートブックが薄くて、かわいい動物たちの絵などがあって楽しい雰囲気だと思った。こちらでもインクの臭いが一切しない教科書で良いと思った。

教 育 長 それでは、算数の場合は6者あるので、まず3者に絞りたいと思う。皆さん、それぞれの推薦する3者を挙げていただきたいと思う。

庄 司 委 員 B者、D者、E者。

花 淵 委 員 B者、D者、E者。

梅 田 委 員 B者、E者、F者。

川 又 委 員 B者、D者、E者。

後 藤 委 員 A者、B者、E者。

山 田 委 員 A者、B者、F者。

教 育 長 そうすると、それぞれ発行者を三つ選んでいただいたところだが、今の皆さんの話からすると、B者と、次に多いのがE者、その次がD者で、BとDとEが上位の3者となるかと思う。ここからは今の3者について改めてご意見をいただきながら決定していきたいと思う。まずこの3者について確認したいこと、ご質問、ご意見などいただければと思う。

川 又 委 員 3者はこれで結構だと思うが、全体に共通する話で、算数とプログラミング教育の関係がどうなっているかということで、プログラミング教育は理科で実践されるのか数学で実践されるのか、その辺の厳密な指導要領上ではプログラミング教育はどのように実施されるのかということと、インデックスとして、索引に日本語の数学的な用語がまとめられているが、5年生、6年生で英語表記がされている教科書もあるので、英語のインデックスを児童が実際に利用するような状況になっているのかどうか、教室でどんな取扱いになるのかをお伺いしたい。

教育指導課長 担当の指導主事からお答えする。

指 導 主 事 最初のプログラミング教育についてだが、算数科においては、プログラミングを体験しながら論理的思考力を身に付ける活動を行うとされており、算数科の目標を踏まえ、数学的な思考力・判断力・表現力等を身に付ける活動の中で行うものとされている。学習指導要領には、5学年の正多角形の作図を行うところでプログラミング学習が例示されている。

二つ目の質問についてである。算数科の中での用語のインデックスだが、算数科の中で英語、外国語を取り上げることについて示されていない。ただ、今回の協議会の中で、他教科との関連が図られているという意味で話題には取り上げられていた。

山 田 委 員 どの教科書にも数学的な見方や考え方について説明が載ってはいるが、掲載の仕方としてまとまっているものと、埋め込まれているものがあり、はっきり見えないところがあって、どこにどのように載っているのかということと、文科省として見方・考え方について、どのように説明されているのか教えていただきたい。あと、今、プログラミングの話があったが、実際には、Chromebookなど、いわゆるデジタル機器を用いた学習が多くなると思う。その際に使用するソフトウェアをつくるためのアプリについて、ソフトウェアはScratchなどがあると思うが、そういうものの指定はあるのか。教科書によって何を使うのかというのが決まっているのか。また、グラフが多く出てくるが、グラフを作成するためのアプリの使い方の指導もされるのかどうか。例えば一般的な会社でいえばエクセルなどを使うが、エクセルはここには入っていない

と思うので、そうした内容につながる指導はされるのかどうかをお聞きしたい。

指導主事 数学的な見方・考え方については、学習指導要領解説算数編において、事象を数量や図形及びそれらの関係などに着目して捉え、根拠を基に筋道を立てて考え、統合的・発展的に考えることと示されている。各者、学習指導要領で示された内容でそれぞれ工夫されている。

また、プログラミングソフト・アプリの指定はされていない。教科書についているデジタルコンテンツを使うことが多いと現場の先生方より聞いている。

グラフの作成については、教科書にあるデジタルコンテンツを使用したり、1人1台端末にある表計算の機能を持つアプリを使用したりしている。

山田委員 そうすると、教科書によって使っているソフト、プログラミングをするソフトによって学び方の差というのはあるのか。

指導主事 それぞれ各者、学習指導要領に則ってソフト、アプリが工夫されているので、そこらは特に問題はない。

花淵委員 1年生の教科書で、①②、上下、 $-1 \cdot 2$ などという表記があるが、これは何か意味があるのか。

教育指導課長 見本本の表紙の①などの表記だが、これは教科書目録の表記と合わせている。各発行者で付けている表記に沿っているので、教科書の名称というところでの区分けはあるが、表示の仕方について特段の意味があるということはないと思う。

花淵委員 これは各発行者が付けているのか。

教育指導課長 そうである。教科書目録の中で示されている表示名ということになる。

教育長 それでは、これまでの話を踏まえて、どこの発行者の教科書がよいか1者に絞り込んでいきたいと思うので、どの発行者が良いかということも含めてご発言をお願いします。

庄司委員 それぞれによさがあるが迷うところはあるが、私はB者を推したいと思う。補充問題については、どこもかなり載っている感じだが、「今日の深い学び」のところで、自分の考えとまた違った友達の考えを比較検討するところが協働的な学びに配慮されている。小学校からでも中学校につながるところで、計算を解くだけではなく、協働的に一緒に考える、そういった学びに配慮されているところがいいと感じたので、B者を推したいと思う。

花淵委員 先ほど指導主事が言った数学的な見方・考え方一番大事なのは2年生の掛け算である。小学校の場合は掛け算が分からないと割り算、分数も分からないということになるので、2年生の掛け算をどう表記しているかというのと、5年生の速さや6年生の平均にどうつながっていくかという部分を見てみた。2年生の掛け算の数学的な見方・考え方がどのように押さえられているかということで行くと、B者の2年生の下巻の7ページにまとめがあって、1つ分の数、幾つ分の数が分かれば全部の数を求めることができるかと載っている。これが小学校の算数を貫く大切な2行だと思うので、ここがやはり非常に大事だと思う。ここをしっかりと押さえずに何気なく行ってしまうと、その後ずっと6年生まで分からなくなってしまう。図形は別だが、B者できちんとまとめているところ、色分けをしているというところ、1つ分掛ける幾つ分が全体というところは非常に大事な考え方が押さえられている。D者とE者は、この押さえが見付けられなかったもので、B者が良いと思う。

梅田委員 今同じ単元とかを他の学年とも比べて見ていたが、E者は、特に計算にということ

に関しては、数を扱う部分をととても丁寧に扱っているので、説明も若干量が多いし、おはじきとかブロックの図も多いと感じている。とても丁寧だとは感じているが、一方で、丁寧な分、情報量が多くて少し見にくい感じがあるので、B者のほうがすっきりとまとまっていて、児童が学ぶことが分かりやすいというところがある。私はそういう意味ではB者でもいいと思った。

川 又 委 員 私はB者がよいと思った。先ほどもお話ししたが、B者の教科書は一貫して図面の配置とか、空白にきちんとした意味付けがあって非常にすっきりした紙面になっていて、長時間使っても疲れなような体裁になっていると思った。それから、いろいろな書き込み欄がしっかりはっきりと作られていて、児童が実際勉強するときに利用しやすいと思った。それからあと、学年が進むにつれて、特に表紙などは単純なものから抽象化、高度化して行くような体裁になっている、この点も非常にいいのではないかと考えている。

後 藤 委 員 私もB者を推す。身の回りの問題を広く取り扱っていて、プログラミングの学習は4年生からとほかの発行者に比べると少し入りは遅いが、内容をきちんと見てみるとしっかりした内容で4年生からでも十分な学びができると思うので、B者を推薦する。

山 田 委 員 私も最初に見て自分で検討したときの順番でいくとB者が良いとは思いますが、改めて教えていただきたい。算数の見方・考え方というのは巻頭にまとめてあるものではないのがあるが、B者の場合はどのあたりに書いてあるのか教えていただければと思う。私はこの見方はすごく重要だと思っている。

指 導 主 事 各学年の教科書の中に虫眼鏡のマークがあり、そこに大切な見方・考え方としてまとめられている。

山 田 委 員 もう1点確認したい。B者の5年生の26ページに単位面積当たり、単位量当たりの数を扱う学習がある。各者取り扱っているが、いわゆる人口密度とか、どちらが混んでいるかということを取っている。B者にあるウサギが一定のエリア内にいるというのは多分何十年もあるような、昔もこれを見たような気がするが、ウサギを何点、何匹、何分の1と表すというのが私は抵抗がある。人数は、例えばある地域に何百人とかという人口密度は分かるが、他者はウサギではないものを使っていて、ここは何か特長があるのかというのを教えていただければと思う。

教育指導課長 各発行者がどのような意図で例えば動物やキャラクターを使っているかというのはそれぞれなので、その意図までは私どももお答えするのは難しいが、小学生の発達の段階ということを考えたときに、例えば分かりやすい動物の一例としてウサギなどこういった小動物、あるいはそういった生き物を取り上げているということは考えられるのではないかと思う。

また、最近では学校で動物を飼育する機会は少なくなってきているものの、市内の学校でもウサギを飼育している学校は実際あって、そういう意味では、子どもたちあるいは学校教育の中で比較的身近な動物であるというところは一つ言えるかと思う。

山 田 委 員 昔から少しだけ引っかかっている、アメリカ人の友人がたまたまこのウサギの面積比率のときの授業を一緒に見ているときに、「2分の3のウサギってどういうこと」と言われて、その考え方は少々違和感があるという気がしたので、そういう見方もあるというのは頭に入れておいたほうがいいと思う。ただ、この発行者の教科書全体を考えたとき、あくまでそういうこともあったということである。よって、B者でも私はいいとは思う。

教 育 長 いろいろ質問もいただきながらお話を伺ったが、今お話を伺ったところでは皆さんB者がよいのではというお話だったかと思う。今までいろいろとお話をいただいた点、身の回りの課題を取り上げていることや他者との話し合い、協働的な学びについて、しっかり押さえてあるといったこと、すっきりとした表記の仕方など、そういったことが挙げられたかと思う。今までのお話からB者ということでもよろしいかと思うが、いかがか。

(異議なし)

教 育 長 それでは、算数については、ただいまご意見をいただいた内容を採択理由として事務局で整理した上で、7月25日に最終的に決定をしたいと思う。

川 又 委 員 今の審議内容の話ではないが、今回の教科書の評価、審議に関して、表紙と裏表紙を白く覆っている。これはある意味、公平性と公正性の点で仕方のないところかと思うが、特に今回の算数の教科書で言うと、表紙と裏表紙にもその教科書の出版の考え方が大いに反映されていると思うので、表紙、裏表紙も見えるような何かいい方法がないかと思う。今回はもう準備されていると思うのでできないと思うが、例えば表紙を見るとその発行者の考え方や方向性、それから年次進行でどのようになっていくかが非常によく見える。裏表紙にもいろいろなインタビュー記事や、クイズのようなものなどが載っており、裏表紙のほうもきちんとした内容になっているので、ぜひとも表紙と裏表紙も見えるような形で公平性と公正性を保てるような仕組みをお考えいただくといいのではないかと思う。今回、特に算数で表紙の作り方が非常に独特なものが多かったので、そんなことを考えた。

教育指導課長 今いただいたご意見については、今後の教科書採択の審議の仕方の一つのご意見として検討していきたいと思う。教科書採択の審議に当たっての、公正・公平という点も踏まえながら検討したいと思う。

### 【家庭】

教 育 長 「家庭」について協議を行う。事務局から、学習指導要領の目標などについての説明をお願いします。

教育指導課長 担当指導主事から説明する。

指 導 主 事 小学校「家庭」について説明する。

小学校「家庭」では、生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、衣食住などに関する実践的・体験的な活動を通して、生活をよりよくしようと工夫する資質・能力を育成することを目標としている。

協議会において取りまとめた小学校家庭の全発行者の特長は、別紙資料1、報告の別紙1の17ページにお示ししている。

主な特長について、まずA者は、「生活に生かそう」で児童の思考内容を確認しながら「関連マーク」「キャリアインタビュー」を活用して、他教科との関連を図ることができるように工夫されているということである。

次にB者は、「成長の記録」を設け、題材ごとの振り返りや学年の目標を記入することで、目的意識を持って学習に取り組めるように配慮されているということである。

教 育 長 ただいまの事務局の説明に対して、ご質問等をお願いします。

(質疑なし)

教 育 長 特にご質問等なければ、皆さんにそれぞれの発行者の教科書見本本を見ていただいたご意見をいただきたいと思う。

花 洩 委 員 A者もB者も一番最初に時間、空間の広がりを意識したガイダンス的な見開きのページがあるが、この見開きのページを見ると圧倒的にA者のほうが非常に詳しく、他教科の関連やこれまでの流れ、それから家庭科がどのような学習なのか、そして中学校にどうつながっていくのかというのが非常に分かりやすいと思った。それから、「関連マーク」や「キャリアインタビュー」などがあって、これも他教科や総合的な学習の時間との関連を図る工夫がされていると思った。それから、調理や製作の手順が左から右に横に流れていて非常に見やすく、児童にとっても作業がしやすいと思った。実際の作業をする場合に、教科書を教室や家庭科室で使うときにも使いやすいのではないかと思った。

B者については、衣食住に関する伝統的な内容が「日本の伝統」マークがついていて非常に分かりやすい。このことから日本の伝統と文化を大切にするという態度につながるのではないかと思った。それから、導入でトライシートというのを使うことで、これも最初に言語活動との関連も図れるのではないかと思った。

梅 田 委 員 どちらも判が少し大きくて、子どもたちが見やすいようにつくられていると思った。

A者については、小学校から中学校へつながる学びとして示されていて、学んで変わるというテーマがとても分かりやすく示されており、自主的な学びとして提示されていると感じた。それぞれの単元の最初のページはかなり情報を精選して、何を学ぶかということをしつきりと伝えている構成になっていると思う。また、諸外国の文化ということにも触れていて、いろいろな暮らしがあるということも示されていた。また、これはB者にもあるが、巻末の資料が写真などがとても大きく示されていて、調理に使う道具とか、あるいは縫い方や裁ち方というような作業の仕方が分かりやすく示されていると思った。さらに、巻末にはいろいろな職種へのキャリアインタビューがあり、将来、中学校、高校と進むにつれて職業選択につながるような、仙台市でいえば自分づくり教育につながる観点が示されていたと思った。全体として写真とイラストが非常に効果的に配置されていて見やすいと思った。

B者については、学ぶ内容が6年間のどこに位置するかが山などのイラストを使って示されていて分かりやすかった。また、SDGsを意識した暮らし方が単元名にも示されていた。B者も生活を変えるという視点で家庭科が捉えられていて、それぞれにそれに伴う目当てが明確に示されているのは工夫されていると感じた。また、書き込めるようになっていて、まとめたり深めたりする学習が子どもたち自身でもできるような工夫がされていた。

川 又 委 員 A者は、折り込みのページがあり、ここで家庭科の全体像が俯瞰できるような工夫がされていて、よく分かると思った。それから、SDGsの活動との関係がよく説明されていて、家庭の中のいろいろな内容に関して科学的な説明が強調されていると思った。温度とか湿度とか栄養などの項目に関して、数字やグラフを用いて科学的な説明が強調されていると思った。SDGsとの関係、それから科学的な説明ということであると、家庭科を単に衣食住の技術にとどめるのではなくて、きちんとした教養とか科学というような意味での考え方で執筆されている。それは非常に大きな特長である。

B者は、図版、イラスト、文字の大きさが非常に適切で、図版、イラスト、文字が非常に分かりやすく配置されていると思う。それから、「日本の伝統」や「プロに聞く！」というマークがあり、項目内容に引き込まれるような構成になっている。家庭

科の中でも文化的な伝統にきちんとした敬意を払っていることはよいところであると思う。また、いろいろな実寸大の写真があり、これは見てよく分かるものであり、またいろいろな工具を使うときの作業手順が非常に分かりやすく説明されている。

後藤委員 A者、B者ともに調理の最後の片づけまできちんと示されているところがありがたいと思った。

A者は、全国の郷土食などの資料写真がとても豊富で、食文化というページ、57ページや125ページで多くの資料写真を使っている。このような写真は結構ずっと記憶に残って、大人になっても「ああ、ああいうもの見たな」というのが残るので、ありがたいと思った。

B者は、資料写真は多くあるが、どちらかという資料写真よりも文章的な説明が多いと思って見ていた。B者は要領よくまとめられていて、特にすごいと思ったのが、買物の学習でインターネットショッピングについての勉強がよくまとめられていることである。これからの子どもたちはインターネットショッピングなどの勉強もしていけないといけないと思うので、そういった意味でそこに説明を加えてあるのはとても良いと思う。

山田委員 A者は、クッキングとかソーイングとか、初めの一步、基本的なことからできることを少しずつ増やしていくということが非常に盛りだくさんで、6年生で献立や袋をつくって、SDGsまで考えるという、内容的には大変情報量が多いと感じた。SDGsとか持続可能な社会のためのリサイクルなど、そういうことにも触れているのが良いと思う。

B者も、コンパクトにまとめられているイメージで、基本的なことが全て入っているが、それにプラスして各項目に資料のようなものがあったりウェブコンテンツがついていたり、写真はどちらも実寸大で大変見やすく載せてあるというのが特徴かと思う。

A者も情報量が大変多いが、これだけ時間内にできるのかという疑問があったが、その点は教えていただければと思った。

庄司委員 A者だが、学習の初めに「学習のめあて」が必ずあり、見通しを持って学習ができると感じた。「なぜだろう」の問い掛けや「考えよう」「調べよう」「話し合おう」といったステップを踏んで学びがどんどん深められていくように工夫されているとも感じた。また、巻末には調理や製作の実寸大の写真掲載があり、大変流れをつかみやすいと感じた。

続いてB者だが、こちらも学習の流れはステップ1・2・3が必ずあって、そこで学ぶ内容というのは大変つかみやすく、分かりやすく工夫されていると感じた。こちらも調理や裁縫の手順は実寸大での見やすい写真が掲載されて、イメージも大変膨らませやすい分かりやすいものとなっており、いいと思った。

教育長 皆さんから発言をいただいたが、確認したい点、それからご質問、ご意見等あればということで、まず先ほど山田委員からあった質問に対して回答をお願いします。

教育指導課長 担当指導主事からお答えする。

指導主事 調査研究委員会でも、たくさんの情報が教科書に盛り込まれていてとてもいいというお話が出ていた。ただ、ここに書いてある教科書の内容全てを授業時間の中で取り扱うことは難しいと思う。学習指導要領に書かれている内容については必ず取り扱い、それ以外の内容については、授業をする教師が必要な情報を整理して、児童の実態や

地域性、興味・関心に合わせて指導する形になるかと思う。

山田委員 指導要領の中に入っていて必ず教えなければいけないものというのは、教科書の中に何か表示されているのか。

指導主事 特に教科書にはこれを必ず教えなければいけないというのは書かれていないが、学習指導要領には明確に、例えば調理だったらゆでる、炒める、調理実習だったらみそ汁とご飯の調理については必ず行うと載っているの、学校では学習指導要領にのっつった授業を行っている。

教育長 それでは、今までのお話を踏まえた上で、どの発行者の教科書がいいか、1者に絞り込んでいきたいと思う。ご意見をお願いしたいと思う。

後藤委員 実際に調理をするときに教科書を見て行うと思うが、学習指導要領でも扱わなくてはいけないと言われている、ご飯を炊くということについて、B者が47ページでA者が51ページにあるが、私はA者の教科書のほうが分かりやすいと思った。片付けるのところで、B者は情報量が多くて、何をやらいいのかすぐに入らないが、A者は、「こびりついたご飯がやわらかくなるよ」と吹き出しに入っている。本当に児童にも伝えたいところで、一番大事な情報がすぐに入ってくる。お米の水の切り方もA者の写真のほうが分かりやすいと思う。全体的に、ほかの調理実習に関しても、A者の教科書のほうが作りやすいと思って見ていた。

梅田委員 買物のところでもそうだが、左から右へと2ページを通して見開きで流れていくように作業の手順や考え方の進みが示されていて、60ページ、61ページ、生活を支える物やお金というところでも、買うか買わないかを考えるというところ、買物の仕方を考えようというところも左から右へ作業手順が示されていて、次の62ページ、63ページも調理と同じように買物の流れが示されているところが子どもたちにとっても見て分かりやすいのではないかと思うので、私もA者がいいのではないかと思う。

花淵委員 私もA者のほうがいいと思うが、A者の「キャリアインタビュー」が、専門家の野菜作りであったり栄養教諭の先生であったり、そういう先生方の一言一言がすごく響く。食べるだけではなくて生産者の方から始まっているのだというところ、それから、作るだけではなくて、アレルギーの児童に対しても配慮しているというところ、そういうところを学ぶことも大事な観点だと思う。今アレルギーの児童が非常に多いので、実際、調理実習をしてもアレルギーで食べられない児童もいるので、そのあたりは大事な観点ではないかと思う。

また、例えばA者の19ページ、キャベツの芯は薄く切って使いましょう、ブロッコリーの芯も使いましょうといった、家庭では切って捨ててしまったりするところもきちんと使いましょうということに配慮がしてあって、細かいところではあるがSDGsにつながる配慮をしているところだという感じがしたので、いいのではないかと思った。

教育長 今、3人の方からA者がよいのではないかというお話をいただいている。他の皆さんはいかがか。

庄司委員 私もA者がいいと思う。例えばミシンの使い方を見ると、A者のほうが大変分かりやすいと感じ。実際にはボランティアさんに入ってもらって一緒に見てもらったりすることも多いのかもしれないが、教科書にきちんと丁寧に書いてあることで、イメージが事前にでき、やる気にもつながると思うので、A者を推したいと思う。

山田委員 私もA者でお願いしたいと思う。皆様おっしゃっていたのはそのとおりだと思うし、

SDGsについても、A者のほうが詳しく、133ページにリサイクルのところも結構詳しく載っていて、そういうところは必要な観点だと思う。

川 又 委 員 私もA者がよいと思う。先ほどもお話ししたが、家庭科の内容を単に衣食住、技術の勉強ということではなく、一般的な理科とか科学の面で説明がよくされていると思う。それから、家庭科の内容のいろいろな料理の手順とか物を作るときの手順など、そういうものは全てプログラミングが関係する。そういう意味でA者のほうがよりよくまとめられていると思う。

教 育 長 皆様からお話を伺ったが、A者を推されている。作業手順がビジュアルで分かりやすい。全体の把握、ガイダンス、学習の深まり、ほかとの関連性が分かりやすい。小中接続の話もあり、衣食住に限らず科学的な面での説明など、あと、具体的な調理であったりミシンのかけ方であったり、そういったことの分かりやすさ、あるいはSDGsやリサイクルにも触れてあるといったようなお話があったかと思う。

そういった観点から、皆さんのお話のとおりA者が候補と思うが、よろしいか。

(異議なし)

教 育 長 それでは、「家庭」については、今ご議論いただいた内容を採択理由として事務局で整理の上、7月25日に最終的に決定したいと思う。

#### 【保健】

教 育 長 ここからは前回継続審議となった「保健」について再審議を行いたいと思う。事務局から改めての説明はないか。

教育指導課長 特にない。

教 育 長 「保健」の再協議に入るにあたって、振り返りをさせていただければと思う。

前回、7月11日の協議では、保健、六つの発行者について委員の皆さんからご意見などをいただき、協議の結果、B者とE者の2者に絞られた。その後、議論を重ねたところではあったが、採択候補の決定には至らず、今日改めてこの2者について協議することになったところである。

前回の協議では、掲載されている情報量やデータ、それから体験談、イラスト、写真などの資料の内容、記述スペースの分量など、それぞれの特長が議論されたところである。主な論点を整理すると、仙台市の採択の観点のうち、「内容に関すること」と「学習と指導に関すること」に関わるが多かったと考えている。

そこで、今日は、教科書の「内容に関すること」というのは主たる教材として使用する教科書を検討する上で非常に大切な要素であると考えている。したがって、取り扱われている題材やテーマのバランスや発達の段階を踏まえた配慮・工夫などにも着目しながら、仙台市の採択の観点である「内容に関すること」の(1)から(5)の内容を踏まえて、仙台市の小学生が使用するのによりふさわしい教科書を1者に絞っていききたい。こういったことで確認をさせていただきたいが、よろしいか。

(異議なし)

教 育 長 それでは、今申し上げた観点でまたご意見をいただきたい。

花 淵 委 員 内容の(3)で「生命を大切にし、人権を尊重する心や他人を思いやる心、美しいものや自然に感動する心などが育つように配慮されていること」という部分に関係してだが、E者の最初の「私たちと一緒に学習しましょう」というところで、車椅子に乗っている子どもであったり外国籍の子どもであったり、一緒に学習する様々な子ど

もたちを登場させていて、人権に配慮されている点が良いと感じた。

山田委員 前回終わってから改めて両方をよく見たが、なかなか難しいのは確かだが、幾つか違うポイントを見ると、私も内容に関する(3)の「生命を大切にし、人権を尊重する心や他人を思いやる心」というところで考えたときに、B者の5・6年生の19ページに人との接し方というのがある、自分と人との距離感というところに心の距離感と体の距離感というのがある、私はこの体の距離感というのも結構重要だなと感じた。同じことがどこに書いてあるかという、E者の5・6年生のほうは17ページに自分の気持ちや考えをうまく伝えようというところがある。人との距離感というところが体の距離感と心の距離感というのを捉えているというのは特長である。

また、B者のほうは、よく見ているとスマートフォンの使い方や、スマートフォン自体の生活のリズムに対する使い方、自転車やながらスマホの危険性などが、詳しく書いてあるイメージがある。したがって、私はB者が良いと考える。

梅田委員 私も改めて見てみて難しいなと思った。同じようなことが書いてあるが、何となく表現の違いというようなところをどう捉えるかという点は難しいと思った。

ただ、同じ内容で「生命を大切にし」というようなことを考えると、B者のほうは3・4年生の最初の6ページに、これはE者も出てはいるが、「安全な生活のために」というのが冒頭に出てきて、まず自分の命を守るためにどうすることが必要かというのが、交通事故のことや、防災のことも含めて簡単に表されているというのが一つの特長であると思う。また、学習の流れ自体はそんなに大きく変わらないが、B者のほうは「見つけよう」「調べよう」「考えよう」「生かそう」の後に、E者のほうも同じで、「調べる・解決する」、見つけて調べて解決して、さらに「まとめる・生かす」というところにつながる。同じ中身が書いてあるところ、例えばB者だと3・4年生の33ページ、E者だと3・4年生38ページだが、同じ胎児の絵が描いてあって、さらに、性と自分らしさのことが書いてあるが、B者のほうは「さらに広げよう深めよう」として大きく1ページを使って生命や性についての悩みなどと相談窓口のことが大きく示されている。E者のほうは、まとめる、生かすという、書き込めることの下に補足して、資料という形で載せてある。B者のほうは「広げよう深めよう」が結構随所に大きなページで、先のながらスマホについても、5・6年生の教科書のほうに見開き2ページを使って「広げよう深めよう」で載せてあり、5・6年生、28ページ、29ページの事故のところでは、自転車の使い方と同じで、ながらスマホの危険とか車の特徴を知ろうということで、命を守るために気を付けるべきことがプラスアルファで詳しく、児童に見やすいように示されている。

後藤委員 私はB者を推しているが、情報量的にはおそらくE者のほうが多く載っているが、B者のほうが本当に教えたいこと伝えたいことが精査されて載っている印象を受けている。

内容として、観点(1)から(4)までの内容、思いやりを持ってということころは心の距離と体の距離というのをしっかり教えてほしい。3・4年生の保健の教科書で思春期の体の変化とあるが、保護者の中で児童に思春期の体の変化を教えられないという悩みはすごく多い。子育てしていると必ず「言えないよね、教えられないよね」ということは聞くので、そこは保護者として手放してしまって申し訳ないが、教科書で思春期の体の変化をきちんと学んでほしい。

それで、この間も申し上げたが、B者の教科書の3・4年生の31ページにある初

経の体験談と精通の体験談というところを書いてあるこの体験談形式の言葉というのは、実はE者以外の教科書には全部載っていた。全発行者の教科書に載っていたが、E者だけが載っていなかった。保護者としてはこの体験談をしっかりと児童に教えていただきたいという思いが強く、親が教えられないところなので、私はB者の教科書を推したい。

川 又 委 員 員 まず、前回の私からの発言ではB者とE者とどちらも決めかねるということであったかと思うが、今回いろいろ教科書を見てみると、B者のほうが確かに記載内容を十分選んで、分かりやすく、それから見やすく整理されていると思うので、B者を推したい。

庄 司 委 員 員 情報量的には私はE者が良いと考えている。ただ、B者がいいという方のお話も伺うと、保護者が小学校で教えてほしい内容がどの部分かという感じ方の違いもあると思う。うちは子どもが大きくなってしまったので、決めかねているところがあるが、前回から私はE者が良いと思っていたので、情報量的にもとても見やすいE者が良いと思う。

教 育 長 今のお話を伺うと、どちらも非常によくできていることは皆さんお感じにはなっていると思う。そういった中で、情報量の話もあったが、内容であったり同じ単元の表現の仕方であったり、保護者から見たときの記載のされ方であったり、そういったお話もいただいた。なかなか甲乙付け難いところだが、E者を推されていた委員からもB者の良さの話もあったので、B者ということではいかがか。

(異議なし)

教 育 長 それでは、前回と今回ということで2回にわたったが、今お話しいただいたことを踏まえて、「保健」についてはB者を候補とする。採択理由などについて事務局で整理させていただき、7月25日に最終的に決定したいと思う。

それでは、今日予定されていた内容は一通り終わりとなるが、「国語」については次回再審議を行う。

次回7月19日に予定されているのは、7月19日だが、「図画工作」、「理科」、「英語」に加えて「国語」となるので、よろしく願います。

それでは、以上をもって本日の臨時教育委員会を閉会する。

4 閉 会